



宮内庁埼玉鴨場を 探訪しよう

市内大林にあり、宮内庁が管理する埼玉鴨場。皇族や外交官などが訪れる自然豊かな特別な場所です。見学会などを除き、ふだんは一般公開をしていないため、どんな場所なのかご存じない方も多いのでは？ そこで今回は、鴨場の中や鴨猟などについてご紹介します。

埼玉鴨場と 越谷特別市民「ガーヤちゃん」の関係

埼玉鴨場にちなんだ「鴨」と越谷特産のねぎにちなんでつくられた「こしがや鴨ネギ鍋」。おいしくて栄養満点のご当地鍋として、毎年冬に行われる産業フェスタでも大人気！ 越谷特別市民「ガーヤちゃん」はこの「こしがや鴨ネギ鍋」のマスコットキャラクターとして平成17年に誕生しました。鴨の鳴き声の「ガーガー」と越谷の「ガヤ」から名づけられています。まさに埼玉鴨場のある越谷市ならではのキャラクターなんです。



鴨場は、国内外のお客様のおもてなしの場として用いられています。毎年11月半ばから、翌年2月半ばまでの期間、各国の外交使節団の長をはじめ、閣僚、国会議員、最高裁判所判事等が招かれ、鴨猟が行われます。鴨場で行われる鴨猟は、江戸時代から大名家に伝わる伝統あるものです。叉手網という網を使うことで、鴨を無傷のまま捕獲することができます(鴨猟の方法は次のページに掲載しています)。捕獲した鴨は、国際鳥類標識調査に協力して標識(足環)をつけ、種類や性別などを記録した後に、すべて放鳥しています。

お客様の おもてなしの場所

自然豊かな 緑地帯

宮内庁が管理する「鴨場」は、越谷市にある「埼玉鴨場」と千葉県市川市にある「新浜鴨場」の2カ所にしかありません。埼玉鴨場は、明治41年(1908年)に大林に開設されました。埼玉鴨場は、約12ヘクタール、東京ドーム2・5個分ほどの広さがあり、樹木や草花などが生い茂る緑地帯です。中央には、元溜という1ヘクタールほどの池があります。元溜には、毎年8月の終わりから、翌年の5月まで約3000羽を越える渡り鳥がやって来て生息します。鴨類のほか、サギ、カワウ、ムクドリなどの群れなどが来る野鳥の楽園となっています。



埼玉鴨場周辺の区域は、市の環境保全区域、鳥獣保護区域に指定され、自然環境の保持に役立っています。

越谷に鴨場があるわけ

江戸時代、越谷には鷹を使って猟を行う鷹場がありました。明治時代になると、越谷を含む地域が、皇室専用の御猟場として指定されました。明治41年に、都内の浜離宮に飛来する鴨が少なくなってきたことや、交通のアクセスも良かったことから、現在の越谷市の大林に埼玉鴨場を開設したとされています。



埼玉鴨場の中を見学してみよう!



6 鴨場開設当時の面影が残った食堂の見学。室内には、明治から大正時代に集められた鹿の角が155本飾られています。



5 引き堀を上から見ることもできます。

4 引き堀(水路)の終端にある小覗ののぞき穴から、引き堀に入ってくる鴨とアヒルを見ます。



引き堀に残っているのはアヒルだよ。鴨は飛べるから、人に気づくと飛び立ってしまうんだ。



元溜は竹林に囲まれているんだ。竹林は人の声やにおいが元溜に行かないように防ぐ役割をしているよ。人の気配に敏感な鴨や野鳥が、鴨場から逃げださないようにしているんだよ。



3 鴨やアヒルなどがいる元溜に向かいます。

1 重厚感のある門から中に入ります。



立派な門だね!



2 鴨場職員から説明を聞いた後、映写室で鴨場を紹介した映像を鑑賞します。

もっと知りたい!

埼玉鴨場あれこれ



Q1 埼玉鴨場には、どんな鳥がいるのですか

A オナガガモ、ヒドリガモ、マガモ、コガモ、トモエガモなど十数種の鴨がいます。また、カワセミやサギ、カワウなどの鴨以外の鳥も数多くいます。越谷市の鳥で天然記念物のシラコバトがいることもあります。



Q4 捕まえた鴨から何か分かったことはありますか

A 捕まえた鴨の足に標識をつけています。日本で標識をつけた鴨のうち、半数近くは埼玉鴨場と千葉県市川市にある新浜鴨場で標識をつけていることが分かっています。また、鴨はシベリアだけでなく、アメリカやメキシコから渡ってくるものや、日本からフィリピンまで渡るものがあるなど、標識調査でさまざまなことが分かっています。

Q2 鴨場が一般公開されると聞きましたが、公開されているのですか

A 越谷市では、毎年市民を対象に4月～8月の市政移動教室で見学できるほか、渡り鳥が飛来する秋・冬に鴨場見学会を行っています。

また、今年3月に政府がとりまとめた「明日の日本を支える観光ビジョン」を受け、魅力ある公的施設を一般開放することになりました。これにより、今年度から国民を対象とした鴨場見学会を宮内庁が、埼玉県民を対象とした鴨場見学会を埼玉県が開催しています。

*市が主催する見学会は、これまでと変わらず行います

Q5 鴨猟はどうやって行われるのですか

A 鴨を捕獲するために、アヒルを仕込むことから始めます。えさを与える前に、撞木という小槌で板木をたたき、音を鳴らします。これを繰り返すうちに、板木のたたき音を聞くだけでアヒルがそばに寄ってくるようになります。鴨の捕獲の際には、板木をたたき、おとりのアヒルを元溜（1ヘクタールの池）から引き堀（約18m）という狭い水路に誘い込みます。すると、アヒルについていけばえさがもらえらると思ひ込み、鴨も引き堀にやってきます。そして、アヒルは飛べませんが、鴨は飛べるため、人の気配を感じて飛び出すところを叉手網（長さ2.5m）を左右に振ってかぶせ捕ります。

Q3 埼玉鴨場の場所はどこですか

A 市内の大林にあります。北越谷駅西口から徒歩15分ほどです。ただし、ふだんは一般公開をしていませんので、見学を希望される場合は下記をご覧ください。



元溜をのぞける大覗。鴨から気づかれることなく、元溜を見れます



板木の音を聞き、鴨とアヒルが一斉に引き堀へ向かいます



引き堀から飛び出す鴨を叉手網を使って捕まえます

埼玉鴨場を見学してみませんか

今年度、市では11月上旬に鴨場見学会を行う予定です。見学ご希望の方は、広報こしがやお知らせ版10月号で、申込み方法など掲載しますので、ご覧ください（応募多数の場合、抽選で参加者を決定します。また、鴨猟は行いません）。

問 広報広聴課 ☎963-9117